

龍腦 d-ボルネオール

龍腦とは、もとは、龍腦樹というインドネシア地方に生育する木の樹脂が沁み出し、結晶化したものです。揮発性が高く、鼻を突き抜けるような清涼感あふれる芳香が特徴ですが、不純物が多く、そして産出量としても乱獲や伐採により非常に僅かな量しか入手することが出来ません。そこで日本では明治時代に藤沢薬品工業が樟腦より龍腦を製造することに成功し、現在までその製法を守り続けています。

龍腦は昇華性に富み、樟腦によく似た香りですが、刺激の中にも、ふくよかで柔らかな香りを持つ優れた香料です。使用する産業としては、焼香や線香などの薫香原料や、香り付けとして墨や墨汁に配合されており、また、医薬品においても色々な漢方薬や目薬などに配合されています。

用途

- 焼香や線香などの香原料
- 医薬品への利用

龍腦ものがたり

龍腦樹は二羽柿科に属する広葉樹で、高さ 50～60m、直径が 1～2m にもなる大木です。東南アジア地方のボルネオ島、スマトラ島、マレー半島などに分布しており、日本には存在しません。


龍腦の歴史は古く、6、7世紀頃には中国の古典医書に収載されており、その頃には産出国の東南アジアから中国やインド、アラビアなど各地で盛んに交易され、特に当時の中国には大部分の龍腦が集まったといわれています。元々産出量が少ない為か、中国では「龍の腦」という名で呼ばれ、上層階級の間で大変重宝されており、8世紀には唐の玄宗皇帝が最上級の品質の龍腦を楊貴妃に贈ったといわれています。



ボルネオ島周辺図

日本に龍腦が伝えられたのは奈良時代といわれています。そして「新修本草」などの本草書や医書によって医薬原料として認識され「本草和名」「倭名鈔」「医心方」などに記載をみます。龍腦は古来より貴重な香・薬原料として使われていたようです。

規格

	特製沸騰龍脳	大梅龍脳	参梅龍脳
商品名			
一般名(化学名)	d-ボルネオール		
組成(化学構造式) (示性式及び分子量)	C ₁₀ H ₁₈ O 154.25		
性状・外観	白色結晶性粉末	白色半透明鱗片状結晶	
臭気	特異な芳香		
融点	207~209°C (終融)		
旋光度	+18~23°		
iso-Bor	23.0~26.0%		
di-Bor	72.0~76.0%		
ヒ素	2.0ppm以下		-
重金属	10ppm以下		-
粒度試験	50メッシュ全通	4~10メッシュ90%以上	10~18メッシュ90%以上
荷姿	600g/12kg	600g	

参考資料

- フジサワ 100年史
- 服部 昭 「クスノキと樟脳-藤澤樟脳の100年」 牧歌舎 2007年
- 宗田 一 「日本の名薬」 八坂書房 2001年

さらに詳しい内容・お問い合わせは下記までご連絡ください。

〒541-0047大阪府大阪市中央区淡路町2丁目4番5号 TEL:06-6202-7867 FAX:06-6202-8419

株式会社 柳沢正巳商店